

### 維持管理事項

1. 露出防水の場合は、原則として防水層のメンテナンスを除いて防水層上の利用は出来ません。
2. 防水層の上を歩く場合は、靴底が軟らかいものを使用し、ハイヒール、スパイクシューズ等の靴底の尖った履物は使用しないでください。
3. 防水層の上で火気の使用は行わないでください。(花火、タバコ等を含む)
4. 防水層の上に油、溶剤、酸、アルカリ等防水層に影響を与える可能性のある薬品をこぼさないでください。
5. 防水層の上で動物の飼育をしないでください。
6. 植栽仕様以外の防水層の上で直接土を入れて、植物を栽培しないでください。
7. 防水層の上に重量物を置かないでください。軽いものを置く場合でも防水層を損傷しない措置を行ってください。
8. 防水層の上で作業をする場合には、防水層を損傷しないように措置を行ってください。
9. 保証期間中の防水に関わる増改築等の工事を行う場合には、事前に防水施工業者にご相談ください。
10. 軽歩行仕様の場合、不特定多数の人が利用する場合には適しませんのでご注意ください。
11. 定期的(年2回)に防水層の上を清掃してください。  
特にドレン回り、排水溝の泥、枯葉等を良く除去し排水の詰まりがないようにしてください。
12. 清掃や雪下ろしをする際に、鋭利な道具を使用しないでください。
13. 梅雨前、降雪の前後、台風の通過前後等には点検を実施してください。
14. 点検時に異常を発見した場合及び漏水が発生した場合は、ただちに元請業者へご連絡ください。
15. 設備機器、アンテナ等の設置工事の際は、事前に防水施工業者にご相談ください。
16. 防水層上でゴルフの練習等、防水層を傷つける行為は行わないでください。



東和工業株式会社

<https://www.towaltd.co.jp>

本社 〒174-0043  
東京都板橋区坂下3丁目29番11号  
Tel. 03(3968)2301(代) Fax. 03(3966)1801

大阪営業所 〒540-0004  
大阪府大阪市中央区玉造1丁目6番13号 玉造ロイヤルビル7階  
Tel. 06(6767)4007(代) Fax. 06(6767)4015

福岡営業所 〒810-0073  
福岡県福岡市中央区舞鶴3丁目7番13号 大禅ビル5階  
Tel. 092(735)7274(代) Fax. 092(735)0717

埼玉工場 〒354-0045  
埼玉県入間郡三芳町大字上富306番地  
Tel. 049(258)3686(代) Fax. 049(258)3604

2022-07-1000 TP

# 改質アスファルトシート アプトーチ工法

APTORCH



東和工業株式会社



### 1. アプローチ工法

アプローチ工法は改質アスファルトシートをトーチバーナーによって加熱溶融し接着させる東和工業の防水工法です。防水業界では社会の状況変化に対応して、各種の新しい防水材料及び工法が出現していますが、その中でもアプローチ工法はアスファルト防水のもつ高い信頼性と環境対策及び省力化工法として優れた評価を得ている防水工法です。

### 2. アプトシートCT、アプトダカンシートCTの特長

アプトシートCT、アプトダカンシートCTは石油精製アスファルトに合成ゴムなどの成分を添加混合したポリマー改質アスファルトをベースとして、これを中間補強材ポリエステルスパンボンドにシート化して製品としたものです。厳しい品質管理下において製造された塗材と基材によって、バランスよく構成されたアプトシートCT、アプトダカンシートCTには、単層シートとして欠かせない安定性を備えています。

- ① 低温から高温まで適用温度範囲が広い。
- ② 気象条件に対して抵抗力が強い。
- ③ 構造物の挙動・変位などに追従して破断しない。
- ④ シート相互のジョイント部が密着して一体化する。
- ⑤ 衝撃・引裂きなどの外傷に対して抵抗力が強い。

### 3. アプローチ工法のメリット

アプローチ工法には長年の経験とアイデアから生まれた独自のメリットが数多く内包されています。

- ① シートの重ねによる段差及び上下シートの間を生じる空隙を緩和するために、シートの片側100mm幅をテーパー形状にしており、厚手シートの難点をカバーしています。
- ② シート裏面に貼り合わせたフィルムは、トーチバーナーの加熱によって容易に溶融し、接着力を阻害しません。また、目視で溶融状態を確認できます。
- ③ ラインナップされた副資材によって、役物を含む完全な防水効果が得られます。
- ④ 陸屋根、傾斜屋根を問わず、新築・改修工事に共通した材料で経済性が抜群です。
- ⑤ 親和性の高いシートと部材の組み合わせによって施工能率が向上し、工期の短縮が図れます。
- ⑥ 防水工事用の資材が少量で作業が簡便なため、一人でも施工が容易な優れた省力工法です。
- ⑦ アスファルトの溶融による有害物質の発生が少ない工法です。

## アプローチ工法標準仕様

### 押え防水

(上段：平場部、下段：立上り部)

仕様番号	工法	1	2	3	4	5	6
CT-110	密着1層	TSプライマー 0.2kg/m <sup>2</sup>	アプトシートCT	絶縁用シート			
CT-120	密着2層	TSプライマー 0.2kg/m <sup>2</sup>	アプトツレシート	アプトシートCT	絶縁用シート		
CT-140	絶縁2層	TSプライマー 0.2kg/m <sup>2</sup>	エアーフラップシートCT アプトツレシート	アプトシートCT	絶縁用シート		

● 立上りを露出仕上げとする場合は工程2または3のアプトシートCTをアプトダカンシートCTに変更する。

### 押え断熱防水

(上段：平場部、下段：立上り部)

仕様番号	工法	1	2	3	4	5	6
CT-110D	密着1層	TSプライマー 0.2kg/m <sup>2</sup>	アプトシートCT	TSコーティング 0.5kg/m <sup>2</sup>	ポリスチレン ボード	PPヤーン クロス	
CT-120D	密着2層	TSプライマー 0.2kg/m <sup>2</sup>	アプトツレシート	アプトシートCT	TSコーティング 0.5kg/m <sup>2</sup>	ポリスチレン ボード	PPヤーン クロス
CT-140D	絶縁2層	TSプライマー 0.2kg/m <sup>2</sup>	エアーフラップシートCT アプトツレシート	アプトシートCT	TSコーティング 0.5kg/m <sup>2</sup>	ポリスチレン ボード	PPヤーン クロス

● 立上りを露出仕上げとする場合は工程2または3のアプトシートCTをアプトダカンシートCTに変更する。

### 露出防水

(上段：平場部、下段：立上り部)

仕様番号	工法	1	2	3	4	5	6
CT-310	密着1層	TSプライマー 0.2kg/m <sup>2</sup>	アプトダカンシートCT				
CT-320	密着2層	TSプライマー 0.2kg/m <sup>2</sup>	アプトツレシート	アプトダカンシートCT			
CT-320K	密着2層	TSプライマー 0.2kg/m <sup>2</sup>	CTシート	アプトダカンシートCT			
CT-340	絶縁2層	TSプライマー 0.2kg/m <sup>2</sup>	エアーフラップシートCT アプトツレシート	アプトダカンシートCT			

### 露出断熱防水

(上段：平場部、下段：立上り部)

仕様番号	工法	1	2	3	4	5	6
CT-320D	断熱2層	TSプライマー 0.2kg/m <sup>2</sup>	TSコーティング 0.5kg/m <sup>2</sup>	硬質ウレタンボード	アプトツレシート	アプトダカンシートCT	
CT-340D	断熱2層	TSプライマー 0.2kg/m <sup>2</sup>	TSコーティング 0.5kg/m <sup>2</sup>	硬質ウレタンボード	エアーフラップシートCT アプトツレシート	アプトダカンシートCT	

● 露出防水仕様のトップコートは別途工事となります。

## アプーチ工法材料

### 主要材料

品名	厚 (mm) × 幅 (m) × 長 (m)	用途及び区分
アプトシートCT	4.0 × 1 × 8 100mm テーパー部の幅 フィルム 珪砂 芯材 改質アスファルト	JIS A 6013 非露出単・複層防水用 R種、II類
アプトダカンシートCT	4.0 × 1 × 8 100mm テーパー部の幅 フィルム 砂粒 芯材 改質アスファルト	JIS A 6013 露出単・複層防水用 R種、II類
アプトツレシート	2.0 × 1 × 15 1000mm ハクリ材 フィルム 芯材 改質アスファルト	JIS A 6013 適合品 非露出複層防水用 R種、II類 粘着層付改質アスファルトシート
CTシート	2.5 × 1 × 8 1000mm フィルム 芯材 改質アスファルト	JIS A 6013 非露出複層防水用 R種、II類
エアーフラップシートCT	1.5 × 1 × 16 1000mm 100mm ハクリ材 フィルム 芯材 改質アスファルト	JIS A 6013 適合品 非露出複層防水用 R種、II類 粘着層付 (JIS、JASS 8の名称) 部分粘着層付改質アスファルトシート

### 副材料一覧表

品名	形状	適用	
TSプライマー	15 kg 缶入 (アスファルト系溶剤型)	下地処理用	
クルタルプライマーエマルジョン	17 L 缶入 (約17kg、合成樹脂系エマルジョン型)		
TS水性プライマー	17 kg 缶入 (アスファルト系水性型)		
クルタルコート	シルバー	16 kg 缶入	砂付仕上用
	グレー、グリーン、ブラウン	16 kg 缶入	
	グレー、グリーン、ブラウン (珪砂入り)	20 kg 缶入	
	シルバーグレー	16 kg 缶入	
TSコーティング	18 kg 缶入 (ゴムアスファルト系溶剤型)	防水層末端シール、断熱材接着用	
クルタルボンドカートリッジ	330cc×30本箱入 (ゴムアスファルト系溶剤型)	防水層末端シール	
クルタルボンドH	20 kg 缶入 (アスファルト系溶剤型)	下地活性化剤、仮防水材	
硬質ウレタンボード	605×910mm 25、30、35、40、50、60mm各厚	露出断熱用 (面材付)	
ポリスチレンボード	910×910mm 25、30、35、40、50mm各厚	押え断熱用 (スキン付)	
CTテープ	2.5mm×20cm×8m、改質アスファルトテープ (不織布芯)	出入隅・角部	
CMテープ	2.0mm×20cm×10m、改質アスファルトテープ (メッシュ芯粘着層付 (JIS、JASS 8の名称))	ドレン・パイプ回り等の増張り	
PPヤークロス	1m×100m、ポリプロピレンクロス平織 70g/m <sup>2</sup> 程度	押え防水	
ポリエチレンフィルム	2.0m×50m、0.15mm厚	絶縁用シート	
改修用ドレン	横引用、堅用 (鉛製)	改修用	
ドレンキャップ	アルミダイカスト製 横引用、堅用		
脱気筒	ステンレス製		
脱気盤	ステンレス製 通気シート付き	平場用	
エンタルタッチ G ルーフイング	厚 1.0mm×幅 1m×長さ 16m JIS A 6023 適合品 あなあきルーフィング	立上り用	
		絶縁用	

## 副材料の種類と用途

### TSプライマー

アスファルト系溶剤型  
消防法 危険物 第4類 第2石油類



- 下地と防水層の接着性を良好にする下地処理材で常温乾燥型。
- 作業中は火気と換気に十分注意する。

### TS水性プライマー

アスファルト系水性型



- 下地と防水層の接着性を良好にする下地処理材で常温乾燥型。
- 使用前は十分攪拌する。
- 5℃以下の施工は避ける。
- 凍結させないように5℃～40℃で保管する。(凍結により使用できなくなる場合がある。)

### クルタルプライマーエマルジョン

合成樹脂系エマルジョン型



- 下地と防水層の接着性を良好にする下地処理材で、常温乾燥型の水性プライマー。
- 下地の湿潤面又は換気の不十分な場所に使用する。
- 5℃以下の施工は避ける。
- 凍結させないように5℃～40℃で保管する。

### クルタルボンドH

アスファルト系溶剤型  
消防法 危険物 第4類 第1石油類



- アスファルト、揮発性溶剤、無機質系充填材を加えた常温乾燥型の既存防水層の下地活性化剤で新規防水材との接着が良好。
- 既存防水層撤去後の仮防水材。
- 使用前は十分攪拌する。
- 作業中は火気と換気に十分注意する。

### クルタルコート

アクリル樹脂エマルジョン型  
シルバー、グレー、グリーン、ブラウン



- 砂付仕上げ工法の保護塗料で防水層の耐久性を維持する。
- 使用前は十分攪拌する。
- 5℃以下の施工は避ける。
- 凍結させないように5℃～40℃で保管する。(凍結により使用できなくなる場合がある。)



### クルタルコート 高反射

アクリル樹脂エマルジョン型  
シルバーグレー



- 砂付仕上げ工法の保護塗料で防水層の耐久性を維持する。
- 赤外線を反射し、屋根表面温度の上昇を抑制する。
- 使用前は十分攪拌する。
- 5℃以下の施工は避ける。
- 凍結させないように5℃～40℃で保管する。(凍結により使用できなくなる場合がある。)



### クルタルボンドカートリッジ

ゴムアスファルト系溶剤型  
消防法 指定可燃物



- 常温硬化型のゴムアスファルト系シール材で押え金物の上端部、ドレン、役物回り及びひび割れ等のシール処理材。

### TSコーティング

ゴムアスファルト系溶剤型  
消防法 危険物 第4類 第2石油類



- 常温硬化型のゴムアスファルト系シール材で押え金物の上端部、ドレン、役物回り及びひび割れ等のシール処理材。
- 断熱材の接着用。
- 作業中は火気と換気に十分注意する。
- 垂直面の施工はクルタルボンドカートリッジを使用する。

硬質ウレタンボード

JIS A 9521 建築用断熱材  
硬質ウレタンフォーム断熱材 2種1号相当\* (面材付)  
露出断熱防水用  
605×910mm、25、30、35、40、50、60mm各厚  
※透湿係数を除く。



ポリスチレンボード

JIS A 9521 建築用断熱材  
押出法ポリスチレンフォーム断熱材 3種bA (スキン付)  
押え断熱防水用  
910×910mm、25、30、35、40、50mm各厚



改修用ドレン



横引用  
ジャバラ外径 45~139mm  
皿部 300×300、400×400mm  
ジャバラ L=400、600、1000mm  
(鉛製)



縦用  
外径 36~145mm  
皿部 300×300、400×400mm  
(鉛製)

ドレンキャップ 横引用



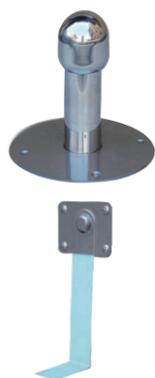
アルミダイカスト製  
底部110×60mm、H=100mm  
底部150×80mm、H=120mm

ドレンキャップ 縦用



アルミダイカスト製  
底部径110mm、H=90mm  
底部径150mm、H=105mm  
底部径180mm、H=140mm

脱気装置

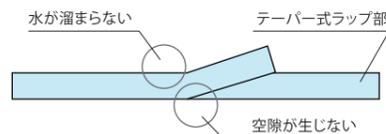


脱気筒 (平場用)  
ステンレス (SUS 304)  
ベース径200mm  
外筒径70mm、H=200mm  
80㎡程度に1箇所設置

脱気盤 (立上り用)  
ステンレス (SUS 304)  
通気シート付き  
100×130mm、11mm厚  
10㎡程度に1箇所

テーパ式ラップ部

独自の製造技術によってアプトシート CT・アプトダカンシート CT のラップ部 100mm がテーパ形状となっています。このため、シートの厚みの段差によってラップ部に空隙の生じる恐れがなく、水密性に優れ、かつ防水層上の排水も円滑となります。



有機溶剤取扱いの注意

1. 取扱う作業所には局所排気装置を設けてください。
2. 引火性の製品ですので、指定数量以上取扱ったり貯蔵する場合は、消防法の危険物第4類の規制を受けます。
3. 引火性がありますので、火気を近づけないでください。
4. 取扱中は保護メガネ、保護手袋、必要に応じて有機溶剤用マスク等を着用してください。
5. 取扱後は石鹸でよく洗い、うがいを十分行ってください。

副材料の保管

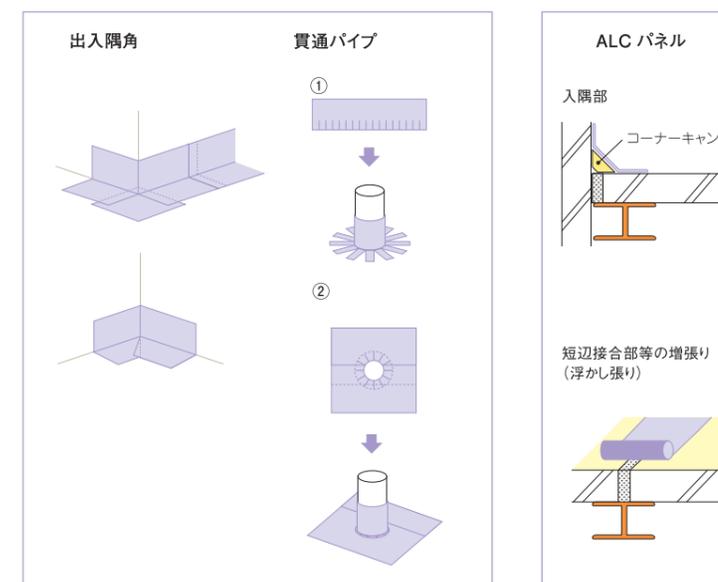
雨露や直射日光のあたらない場所に湿気の影響や損傷等を受けない状態で保管してください。

■ 下地のチェックとプライマー塗布

- 下地の塵埃、レイタンス、凹凸、湿潤等が防水層の接着を妨げたり、不陸及びドレンの取り付け不良等が排水の不具合要因にならないことを確認する。  
(勾配 露出防水 1/50 ~ 1/20、押え防水 1/100 ~ 1/50)
- プライマーの塗布は下地に浸透するようむらなく行う。屋内、地下等の換気が悪い場所には、必要に応じてTS水性プライマーを使用する。  
ALCパネル下地の使用量は 0.4kg/㎡ (2回塗り) とする。  
(乾燥の目安は指触乾燥程度とする。)

■ 増張り CTテープ・CMテープ

ドレン、パイプ、出入隅及び出入隅角部等にテープ相互の重ね段差、小口のめくれ、隅角部の突っ張りがなく、下地としっかり接着するようにバーナーとコテ等で均しながら密着させる。一般用はCTテープ、複雑な箇所はCMテープを使用する。



■ シート張り

● 下張り (複層用下張シート)

[アプトツレシート]

上張りシートとアプトツレシートの接合部が同一箇所とならないよう割付けをする。アプトツレシートの裏面のハクリ材を引き剥がしながら、転圧ローラー等で密着させる。シートの接合幅は長手、短辺とも100mm以上重ね、被着面のフィルムをバーナーで溶融させた面に密着させる。

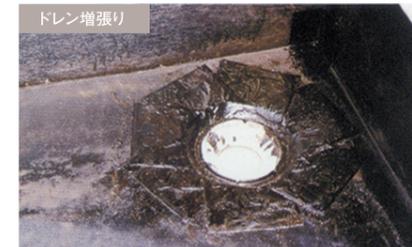
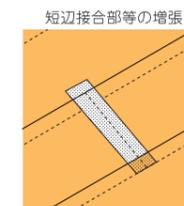
[CTシート]

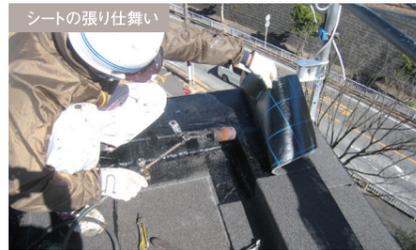
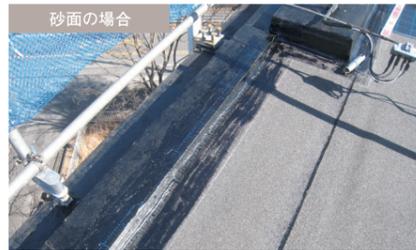
上張りシートとCTシートの接合部が同一箇所とならないよう割付けをする。CTシートは溶着張りするシートで被着面のフィルムをバーナーで溶融した面に上張りシート、又は同シートの2層張りに適用する。

[エアーフラップシートCT] 部分接着型通気シート

アプトツレシートと同じ要領で転圧張りをする。シートの接合幅は長手100mm以上重ね、被着面のフィルムをバーナーで溶融させた面に密着させる。短辺の接合は突き付けとし、CTテープ又はCMテープで増張りする。

※立上り際から幅500mm程度はアプトツレシートで密着張りする。





## ● 単層張り、複層の上張り

### [アプトシートCT、アプトダカンシートCT]

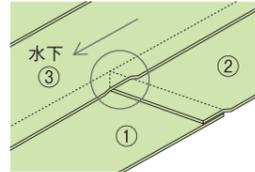
各シートともあらかじめ割付けを定め、水下から水上に向かって張り付ける。ドレンと下地勾配を考慮した墨付けに沿って仮敷きし、そのまま半分を巻き戻し、バーナーの炎を下地とシートの接点に当て、接着面に均等量の改質アスファルトを溶融しながらシートの曲がり、ゆがみ、空気の巻き込み等が生じないように張り付ける。シートの接合幅は長手100mm以上、短辺120mm以上重ねる。

#### ○ 砂面の接合

重ね部分の砂面をあぶり、砂を沈めるか、砂をコテでかき取って改質アスファルトを表面に出した上に接合する。

#### ○ シートの3枚重ね部分

3枚重ね部分は水みちになりやすいので中間のシート②を斜めにカットするか、バーナーとコテ等を用いて平滑にする。



### [シートの張り仕舞い]

#### ○ シート相互の接合部(小口)処理

バーナーとコテ等を用いてシート小口の改質アスファルトを熱しながらヒートシール処理する。

#### ○ シートの末端部処理

ドレン回り、貫通パイプ回り(ステンレス製既製バンド等で上部を締め付ける)等のシート末端部はクルタルボンドカートリッジ等でシール処理する。

#### ○ 立上り端部処理

立上り防水層末端部は十分な剛性と、耐腐食性を有する押え金物、金属製笠木等で確実に固定し、防水層上端部はクルタルボンドカートリッジ等でシール処理する。

## ■ 断熱材の張付け

### ● 露出断熱工法の場合(硬質ウレタンボード)

櫛目ヘラ等でTSコーティングを点付け、又は均等に塗りながら段差及び隙間のないように順次張り付ける。断熱材の張付けは、その日に張付ける防水シートに見合った面積を施工する。

### ● 押え断熱工法の場合(ポリスチレンボード)

アプトシートCTの面に櫛目ヘラ等でTSコーティングを点付けし、段差及び隙間のないように順次張り付ける。

## ■ トップコートの塗布

十分攪拌後、ローラー刷毛(珪砂入りはゴム刷毛)等で色むらのないよう所要量を塗布する。

(ただし、5℃以下及び当日に降雨降雪が予想される場合は避ける。)

## ■ 押え層

### ● 保護コンクリート

普通コンクリートとする。ひび割れ防止に溶接金網を敷き込み、すみやかに打設する。

### ● 立上り部の保護層

#### [乾式工法]

立上り部の保護・仕上げとして、れんが類に替わり乾式で施工する。保護パネル類は金属板、セメント成形板、金属系複合板等があり、選択にあたっては、防水層立上り部の点検・維持・管理が容易な構造のものが望ましい。

#### [従来工法]

#### ● れんが、ブロック押え

れんが積みは半枚積みとし、防水層から20mm程度離し、隙間にはモルタルを充填する。

#### ● 現場打ちコンクリート

保護コンクリートを上部天端まで確実に充填するように打設する。防水層末端部は押え金物で固定し、シール処理する。

#### ● モルタル押え(室内防水層)

200mm程度間隔に千鳥状にトンボをつけ、メタルラスを取り付けた後にモルタル塗りをする。

## ■ 成形伸縮目地材等

### ● 絶縁用シート

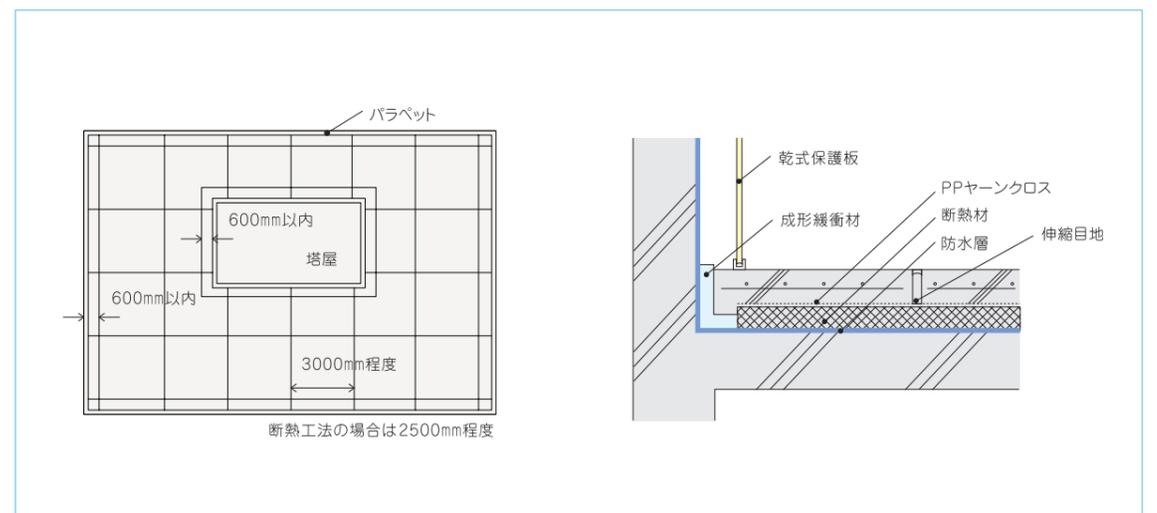
防水層完了後、重ね幅100mm程度とりながら粘着テープ等で固定し、平場に敷き込む。(断熱工法はPPヤーンクロスを使用する。)

### ● 成形緩衝材

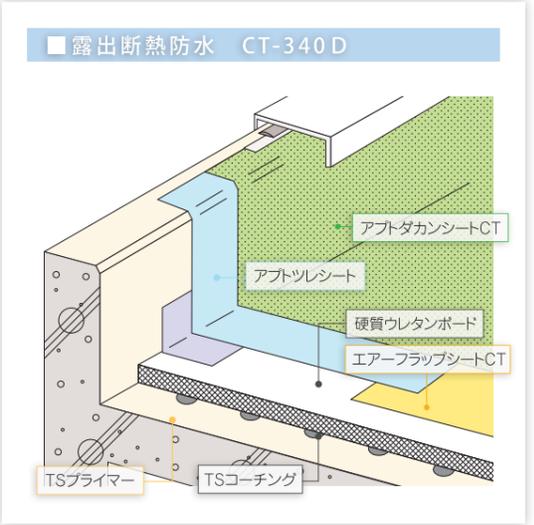
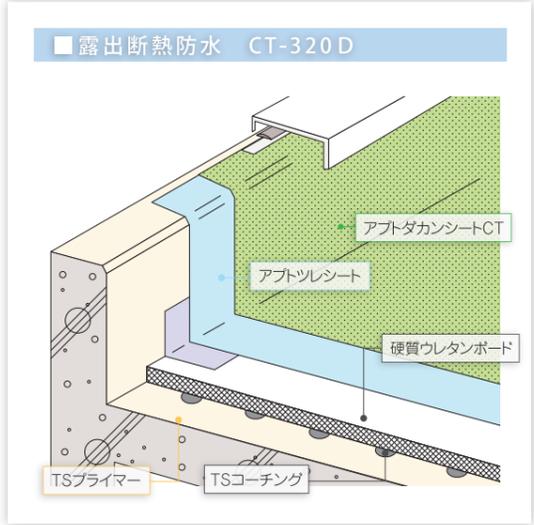
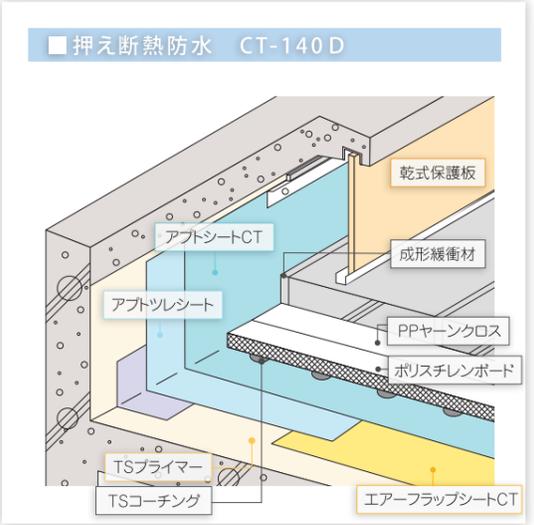
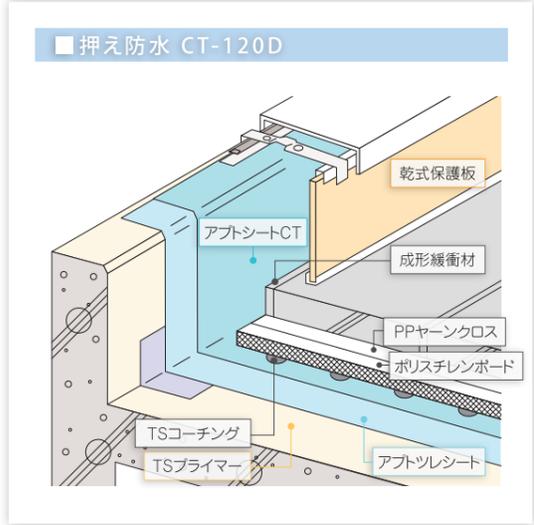
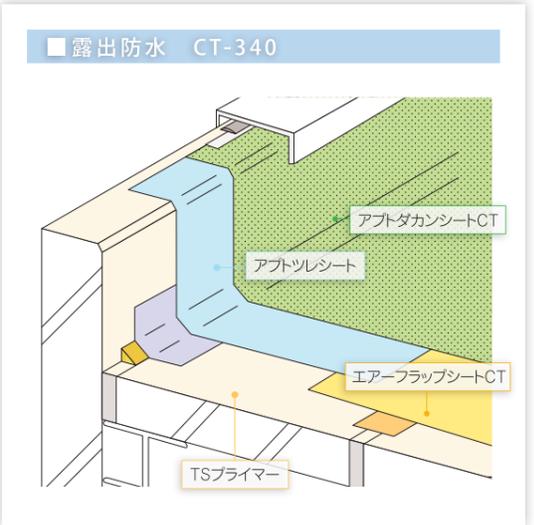
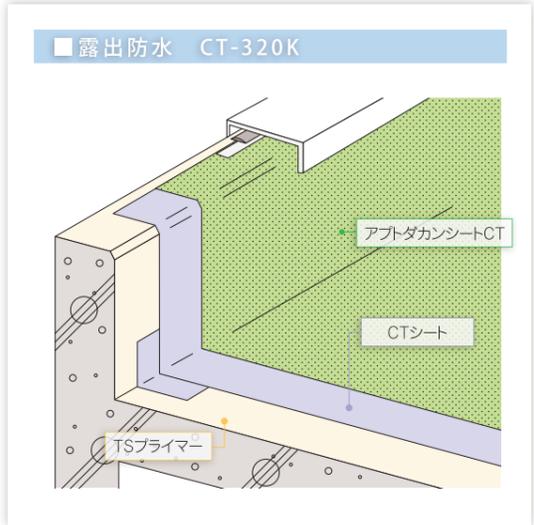
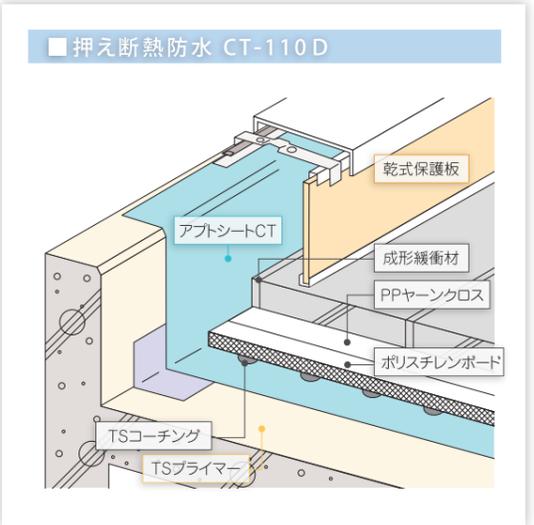
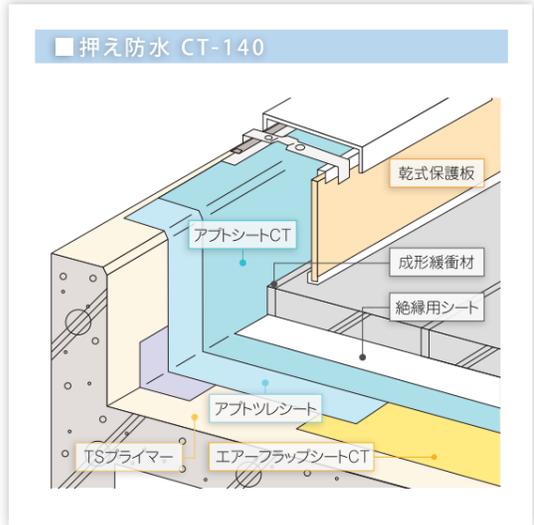
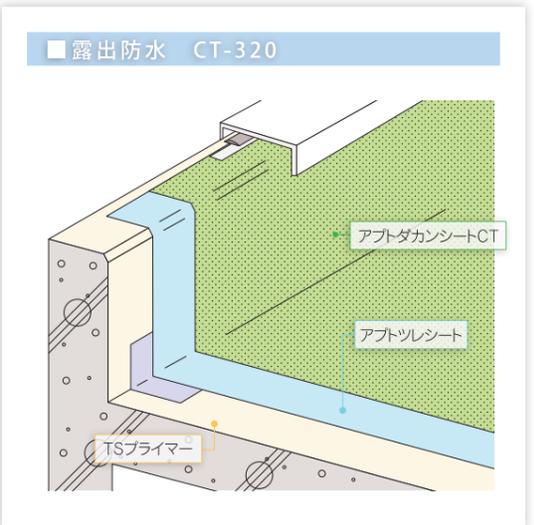
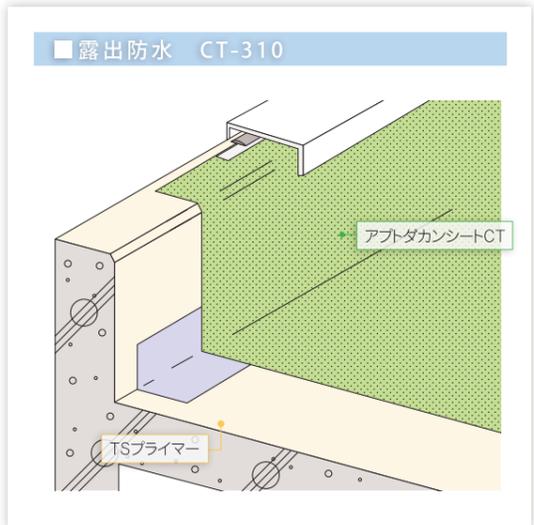
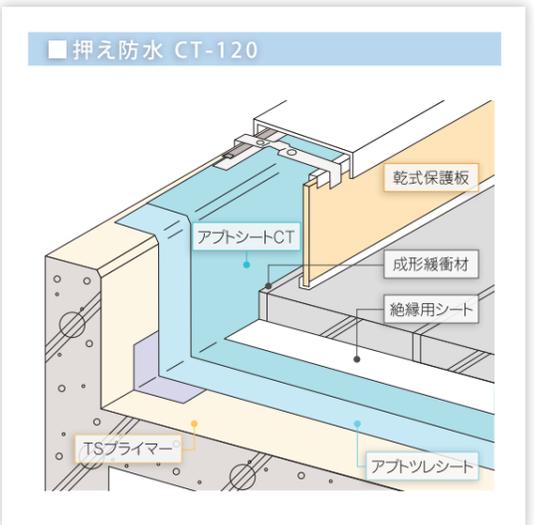
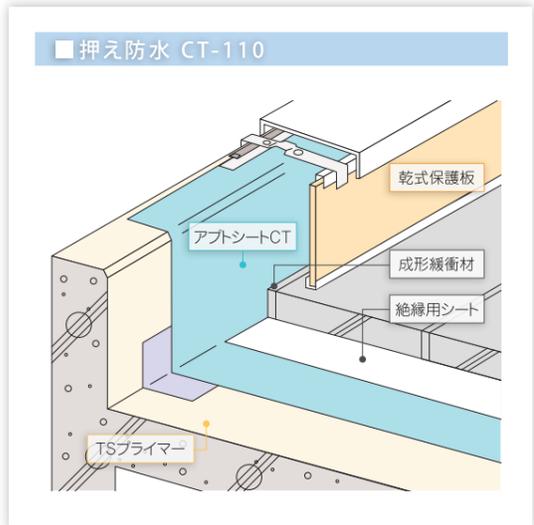
パラペット、塔屋等の立上り際には、成形緩衝材を取り付ける。

### ● 成形伸縮目地材

縦・横の間隔は3m程度(断熱工法は2.5m程度)とし、立上りパラペットや塔屋等の立上り際から600mm以内の位置で、キャップ幅は25mm程度とする。また、防水層上面の絶縁用シート面から保護コンクリート表面に達するように設置する。



アプーチ工法施工例図



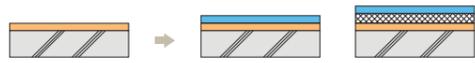
# アプトーチ改修工法

## 適用工法と下地拵え

### 既存防水層が露出アスファルト防水

#### 既存防水層を残す

適用工法 ▶ CT-310、CT-320、CT-320K、CT-320D、CT-340D



#### 【下地拵え】

- 立上り部の既存層は撤去する。(撤去部の防水層端部及びひび割れはTSコーティングで雨養生する。)
- ドレン回りの既存層は撤去する。▶「[下地処置例図-1\(a\)](#)」
- フクレ、シワ及び滞水ヶ所の処置をする。▶「[下地処置例図-3](#)」  
(撤去部の既存層と下地の段差が大きい場合は、トーチバーナーとコテ、ヘラ等を用いて段差周囲を溶着又はTSコーティングでシール処理後、樹脂モルタル等で平坦にする。)
- 下地に付着するアスファルト残存物はケレン及びトーチバーナーとコテ、ヘラ等を用いて平坦にする。
- 不陸部分(水溜り跡)がある場合は、樹脂モルタル等で平坦に仕上げる。(樹脂モルタルは十分乾燥させる。)
- 標準仕様の平場の工程1のプライマー 0.2kg/m<sup>2</sup>を下地活性剤クルタルボンドH1.2kg/mlに替える。

#### 既存防水層を撤去する

##### ●新規防水層が密着工法の場合

適用工法 ▶ CT-310、CT-320、CT-320K、CT-320D、CT-340D



#### 【下地拵え】

- 既存層は撤去する。  
(既存層の撤去は当日のうちに雨養生ができる範囲内とし、降雨降雪が予想できる場合は行わない。)
- 下地のひび割れはTSコーティングでシールする。
- 下地に付着するアスファルト残存物はケレン及びトーチバーナーとコテ、ヘラ等を用いて平坦にする。
- 標準仕様の平場の工程1のプライマー 0.2kg/m<sup>2</sup>を下地活性剤クルタルボンドH1.2kg/mlに替え、雨養生を兼ねる。
- 不陸部分がある場合は、樹脂モルタルで平坦に仕上げる。(樹脂モルタルは十分乾燥させる。)

##### ●新規防水層が絶縁工法の場合

適用工法 ▶ CT-330、CT-340



#### 【下地拵え】

- 既存層は撤去する。  
(既存層の撤去は当日のうちに雨養生ができる範囲内とし、降雨降雪が予想できる場合は行わない。)
- 下地のひび割れはTSコーティング等でシールする。
- 下地に付着するアスファルト残存物はケレン及び清掃で除去する。
- 雨養生はポリマーセメント系下地調整材又は樹脂ノロ等を用いて入念に塗布する。
- 不陸部分がある場合は、樹脂モルタルで平坦に仕上げる。(樹脂モルタルは十分乾燥させる。)

### 既存防水層がウレタン塗膜防水

#### 既存防水層を残す (既存防水層が密着工法の場合)

適用工法 ▶ CT-310、CT-320、CT-320K



適用工法 ▶ CT-320



#### 【下地拵え】

- フクレ、浮き部分は撤去し、ポリマーセメント系下地調整材で補修する。
- 平場、立上りともポリマーセメント系下地調整材又は樹脂ノロ等を塗布する。

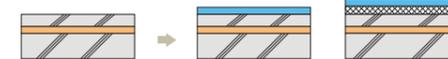
#### 【下地拵え】

- フクレ、浮き部分は撤去し、ポリマーセメント系下地調整材で補修する。
- 標準仕様の工程1のプライマー 0.2kg/m<sup>2</sup>を1液湿気硬化型ウレタンプライマー 0.1kg/m<sup>2</sup>程度に替える。

### 既存防水層が保護(押え)防水

#### 保護(押え)層を残す

適用工法 ▶ CT-310、CT-320、CT-320K、CT-330、CT-340、CT-320D、CT-340D



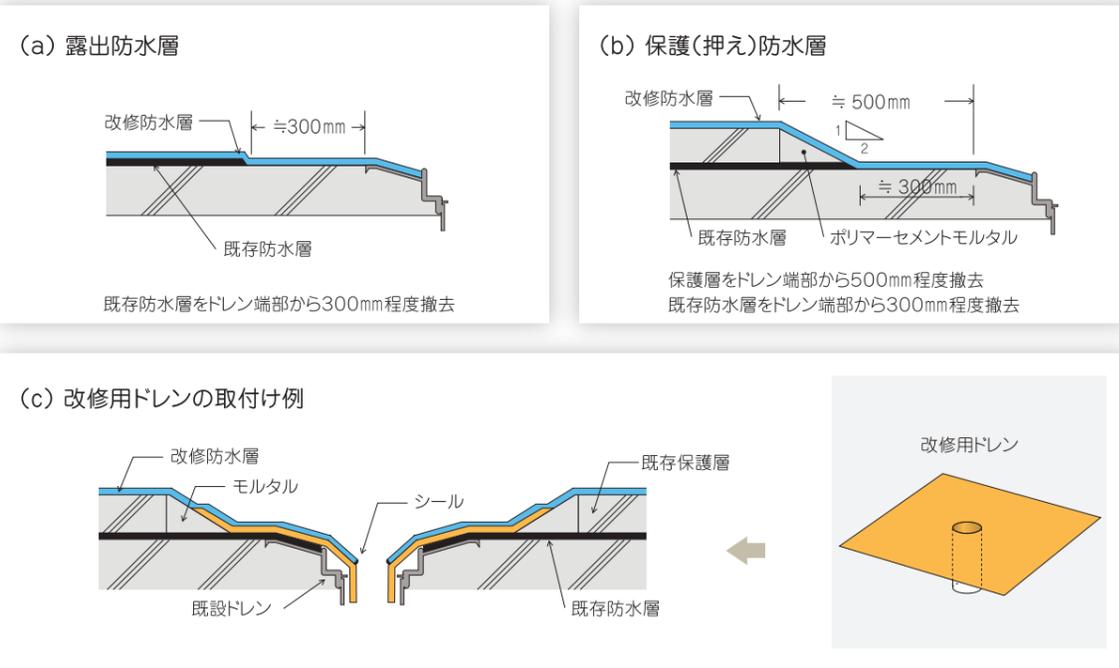
#### 【下地拵え】

- 改修用ドレンを設けられない場合のルーフトレン周囲の処置。▶「[下地処置例図-1\(b\)](#)」
- 改修用ドレンを採用する場合。▶「[下地処置例図-1\(c\)](#)」
- 立上り部の保護層、防水層を撤去する場合は、下地に損傷を与えないようにする。
- 保護(押え)層にせり上がりがある場合は、既存伸縮目地を拡幅する。
- コンクリートのはく落、浮き、剥離部等は撤去し、樹脂モルタル又はポリマーセメントペースト等で補修する。
- コンクリート欠損部は樹脂モルタルで補修する。
- 隣接する保護(押え)層間に極端な段差がある場合は、樹脂モルタルでなだらかに修正する。
- ひび割れ部分はTSコーティング等で補修する。
- ひび割れ幅が2mm以上はUカット又はVカットし、TSコーティング等を充填する。
- 側溝部の段差はモルタル類でテーパー付けする。
- 既存伸縮目地の処置
  - 脱気に利用しない場合 ▶「[下地処置例図-2\(a\)](#)」
    - 成形伸縮目地のキャップは撤去し、TSコーティングを充填し平坦にする。
    - エラストイ目地又は注入目地材の押し出し部は、やや深めに撤去してTSコーティングを充填する。  
\*目地部の絶縁処理は幅200mm程度の増張りを目地の中心より均等に振り分け、浮かし張りする。
  - 脱気に利用する場合 ▶「[下地処置例図-2\(b\)、\(c\)](#)」
    - 既存目地はできるだけ深く撤去し、通気溝として利用する。
- コンクリート表面が経年で骨材の凹凸が著しい場合は、ポリマーセメント系下地調整材、樹脂ノロ又はポリマーセメントペースト等で平滑にする。

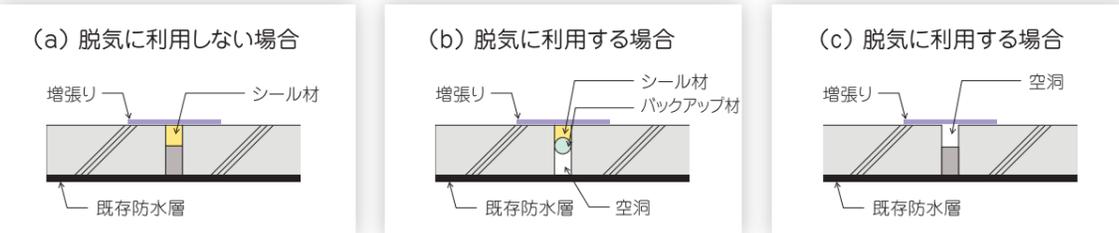
各下地処置例図は、14ページを参照

下地処置例図

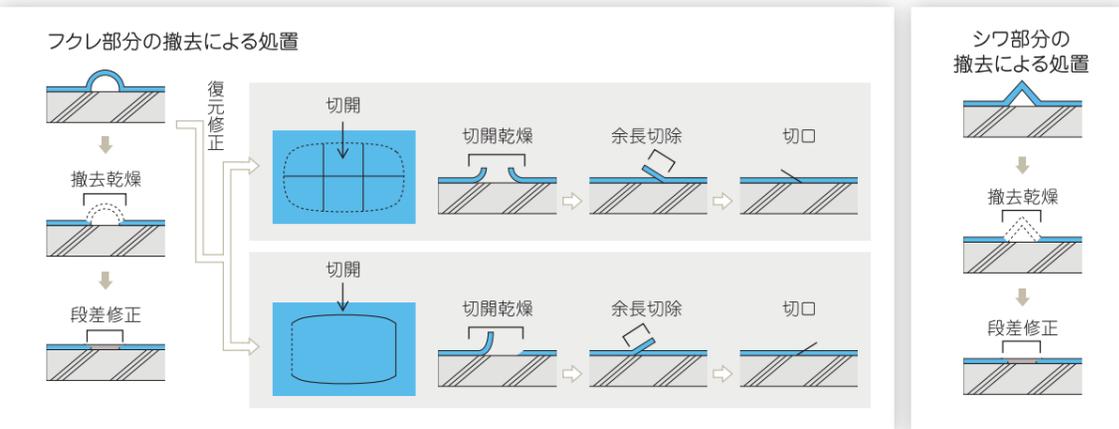
【例図-1】ルーフドレン回りの処置



【例図-2】既存伸縮目地の処置



【例図-3】既存アスファルト系防水層の浮き(フクレ・シワ)の処置



改修工法の種類・工程

種類	M3AS	M3ASI	M4AS	M4ASI	P0AS	P0ASI
工程	1	既存防水層(立上り部等)撤去	既存防水層(立上り部等)撤去	既存保護層(立上り部等)撤去	既存保護層(立上り部等)撤去	既存保護層(立上り部等)撤去
	2	既存防水層(平場)撤去	既存下地の補修及び処置	既存下地の補修及び処置	既存防水層(立上り部等)撤去	既存防水層(立上り部等)撤去
	3	既存下地の補修及び処置	防水層の新設(ASI-J1は断熱材新設)	防水層の新設(ASI-J1は断熱材新設)	既存下地の補修及び処置	既存下地の補修及び処置
	4	防水層の新設(ASI-T1は断熱材新設)			防水層の新設(ASI-T1は断熱材新設)	防水層の新設(ASI-T1は断熱材新設)

改修工法の種類の見方

分類	既存防水工法による区分	既存の保護層及び防水層の撤去・非撤去による区分	新規防水工法の種別による区分
区分の表示内容	M-露出アスファルト防水工法 P-保護アスファルト防水工法	3-露出防水層撤去 4-露出防水層非撤去(立上り部等撤去) 0-保護層及び防水層非撤去(立上り部等撤去)	AS-改質アスファルトシート防水工法 ASI-改質アスファルトシート防水断熱工法

屋根露出防水密着工法の種別及び工程（改修工法の種類 M4AS）

種別	1	2	3	4
AS-T1	TSプライマー 0.2kg/m <sup>2</sup>	CTシート	アプトダカンシートCT	クルタルコート
AS-T2	TSプライマー 0.2kg/m <sup>2</sup>	アプトダカンシートCT	クルタルコート	

1. ALCパネルの場合は工程1を0.4kg/m<sup>2</sup>とする。 2. 下地が既存防水層の場合は工程1を省略する。

屋根露出防水断熱工法の種別及び工程（改修工法の種類 M3AS、P0AS）

（上段平場、下段立上り）

種別	1	2	3	4
AS-T3	TSプライマー 0.2kg/m <sup>2</sup>	エアーフラップシートCT CTシート	アプトダカンシートCT	クルタルコート
AS-T4	TSプライマー 0.2kg/m <sup>2</sup>	エンタルタッチG	アプトダカンシートCT	クルタルコート

1. ALCパネルの場合は工程1を0.4kg/m<sup>2</sup>とする。 2. 脱気装置の設置は特記による。

屋根露出防水断熱工法の種別及び工程（改修工法の種類 M3ASI、M4ASI、P0ASI）

（上段平場、下段立上り）

種別	1	2	3	4	5	6
ASI-T1	TSプライマー 0.2kg/m <sup>2</sup>	TSコーチング 0.5kg/m <sup>2</sup>	硬質ウレタンボード	エアーフラップシートCT CTシート	アプトダカンシートCT	クルタルコート

1. ALCパネルの場合は工程1を0.4kg/m<sup>2</sup>とする。 2. 下地が既存防水層の場合は工程1を省略する。  
3. 防湿層の設置は特記による。 4. 脱気装置の設置は特記による。

増張り

- ALCパネルの短辺接合部等大きな動きが予想される部分は、あらかじめ幅300mm程度の増張り用シートを増張りする。
- PCコンクリート部材の接合部の目地部には、改質アスファルトシート張付けに先立ち、増張り用シートを両側に100mm程度ずつ張り掛けて断熱増張りする。
- 出入隅部は改質アスファルトシート張付けに先立ち、幅200mm程度の増張り用シートを増張りする。